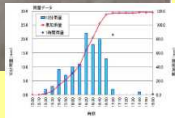


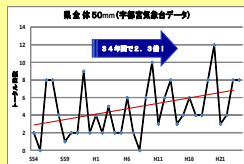
流域の概要

平成25年7月27日豪雨時の小藪川

近年多発する集中豪雨により小流域の都市内の河川の浸水被害が増加  
 小藪川上流域の都市部では、近年浸水被害が発生し、平成25年7月豪雨では、床上45戸、床下62戸の浸水被害が発生



○栃木県における時間雨量50mm以上の発生回数は、  
 ・S54年～H24年の30年間で発生回数は約2.3倍



○市街地の拡大により、流出量が増大 → 浸水危険度が増大  
 ・流域内の市街化率(上流域) S52年: 21.2% → H23年: 29.5% 約1.4倍  
 ・河川整備(河川整備計画目標1/10)  
 ・下水道整備(雨水: 全体計画1/7)

【浸水被害の主な要因】

- 頻発する集中豪雨により、計画高水流量や流下能力を超える洪水の発生、浸水の発生の危険度が増大
- 市街化の進展等により、流域からの流出量が増大し、一気に河川に流入
- 一方、都市化の進展等により、河川改修に多大な費用と時間が必要

⇒ 流域における治水対策を関係機関が一体となり効果的に組み合わせる必要がある

小藪川上流域の総合的な治水対策について、栃木県・鹿沼市・地域住民の代表からなる「小藪川上流域総合治水対策協議会」で検討し、関係機関が対策を実施

小藪川上流域総合治水対策協議会 (H25.12)

組織	部局
県関係	栃木県鹿沼土木事務所
市関係	鹿沼市都市建設部、環境部(下水道)、総務部(防災対策)
地域住民	小藪川4町対策協議会

小藪川上流域市街地安心プラン対策箇所図



凡 例	
河川改修事業	
下水道管渠整備	
流域貯留浸透施設検討	

計画期間: 平成25年度～平成34年度

取組の概要

- 集中的な対策の実施
  - ・ 河川事業と下水道事業の連携により、浸水被害の危険性が高い地域を集中的に整備
  - ・ 河川の改修、下水道事業による狭窄部を中心とした雨水幹線の改修、流域における貯留・浸透施設等により流域全体で対応
  - ・ 河川管理者の県、地元鹿沼市、下水道管理者及び地域住民が連携して対策、進捗管理、ソフト対策を実施
- 対策効果の早期発現に向けた進捗管理
  - ・ 関係機関・住民代表で組織する小藪川上流域総合治水対策協議会において各実施主体が報告を行いプランの進捗管理・評価を実施

取組の効果

期間内に関係機関が対策を実施することにより、対象とする降雨と同規模の降雨に対して小藪川上流域で床上浸水被害を軽減する。